

分科会名 <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 理 科 </div> 平成29年6月7日（水）	会 場 川崎市立東菅小学校 助言者 日本体育大学児童スポーツ教育学部教授 角屋 重樹先生 川崎市総合教育センター 永田 賢先生 授業者 川崎市立東菅小学校 村田 かほる 佐藤 洋一 杉山 智之 滝上 貴博 米倉 史乃 司会者 川崎市立東菅小学校 東澤 ゆり子 記録者 川崎市立東菅小学校 桜井 謙一 世話人 川崎市立稲田小学校 岩田 孔 出席者数 147名
---	--

1 提案の概要

3年「風とゴムのはたらき」

- ・生活科からのつながりとして、**思考の原点としての感覚的なもの**を取り入れ、風の強弱の違いとはたらきとしての車の走る距離を**関係づけて**いく。
- ・**風が弱い時を比較の基準**として、強弱の比較ができる2台の送風機をグループ毎に置くことと、結果をシールで示し、個とグループの結果で**関係づけて**捉えていく。

4年「ヒトの体のつくりと運動」

- ・腕の動くしくみを**曲がるところと曲がらないところを視点**として捉え、**思考の基盤**を作っていく。
- ・腕の動きで捉えた**曲がるところと曲がらないところを視点**とし、**思考の基盤**として、全身の動きとつくりを**関係づけて**いく。

5年「雲と天気の変化」

- ・前時までの**実際の雲の量と動きと天気**の関係を**思考の基盤**として、雲画像を中心とした気象情報と天気の変化を**関係づけて**いく。

2 研究協議の概要

3年「風とゴムのはたらき」

○比較の場面を取り入れていく中で、子どもたちの問題発見の力がついている。**授業場面で比較を繰り返し位置づけていく**ことが、重要とわかった。

- もっと自由に車を走らせる**中で、子どもたちの中から自然に風の強さと距離について疑問が出てくるのではないか。

4年「ヒトの体のつくりと運動」

○**腕の動きのしくみを思考の基盤**としたことで、曲がるところと曲がらないところに視点をおいて、全身のつくりと動きを**関係づけて**いくことができた。

- 体のつくりを調べるのに、レントゲン写真が有効であった。一方、従来の学習で活用してきた**人体模型をどう位置づけて**いくか。

5年「雲と天気の変化」

○**資料を時系列に並べて提示**したことにより、子どもたちが、雲の量と動きに視点をあてて天気の変化を**関係づける**ことができていた。

- 雲の量を、雲画像の雲の色の濃さと**関係づける言葉かけ**が弱かった。

☆指導・講評

・授業研究は、盛大に行うことが大事なのではなく、**子どもたちが育っていることが大事**。今日の授業を見てわかったと思うが、本校は子どもが育っている。あれだけ考えを言える子ども、**思考のすべを使って考える子ども**が育っていることを、先生たちも実感している。

・次期学習指導要領は、資質・能力育成が中心となる。資質・能力に欠けているのは、**感覚的に感じとる力**。今日の提案は、3年生は**感覚から思考を広げて**いく、4年生は**つくりとはたらきを思考の基盤としてすればものを視ることが**できる、5年生は**部分をとらえ全体と関係づける**ことである。自分の上の雲と天気の変化で、自分が気づいたことを日本全体に広げていく。**気象は確率**であり、決定論としての予測ではないととらえていくことも必要である。

・体験としての生活科の気づきから理科の視点につながる毛立てを考える。**接続が大事**である。